

8部

卒業と
資格・免許状
取得のために

1 平成24年度(2012年) 9月卒業希望の方へ

本年9月に卒業を希望する方で、2月までの「卒業試験」に合格していない方は5・6・8月のいずれかの科目修了試験の際に「卒業試験」を受験してください。

ただし「卒業研究」提出予定者は「卒業試験」受験の必要はありません。

2 平成24年度(2013年) 3月卒業希望の方へ

●卒業試験 受験について

来年3月に卒業を希望する方で、現時点で「卒業試験」に合格していない方は、今年9月以降9・10・12・1月のいずれかの科目修了試験の際に「卒業試験」を受験してください。

ただし「卒業研究」提出予定者は「卒業試験」受験の必要はありません。

●卒業研究 申込みについて

「卒業研究」受講希望者は『レポート課題集2011(3・4年次)』p.98～104, 181～182をよく読んで、巻末の「卒業研究 申込用紙」の年度を平成24年度に変更して4月5日までに申込みを行ってください。

3 社会福祉士 取得希望の方へ

実習受講者へのご案内は個別に必要に応じてお送りさせていただきます。

国家試験対策講義のくわしいご案内は本冊子 p. 72～73をご参照ください。

1 発送物のご案内

実習審査結果通知（全員） 3月3日までに発送済

実習内諾通知 施設から内諾書が到着次第発送

◆実習指導(事前・事後)スクーリング申込用紙（7/1～12/25実習受講者分） 3月14日発送済 →申込締切日4/2

◆実習事後指導案内（2/1～7/10実習受講者）

3月9日発送済（全員9/1で受講してください）

「★演習A」「◆演習Ⅰ」結果通知（12/3・4新潟，1/28・29盛岡・東京，2/4・5仙台） 2月9日発送済

「★演習B」「◆演習Ⅱ」スクーリング受講判定結果通知発送

4月23日発送予定

「★演習C」結果通知（2月スクーリング受講者分） 3月5日発送済

2 平成24年度新入生ほか「★演習A」「◆演習Ⅰ」受講希望の方へ

社会福祉士受験資格取得希望者は、「★演習A」「★演習B」「★実習指導A・B・演習C」などの申込みの際、受講順序、受講条件、申込期日が科目ごとにありますので順序よい履修と計画的な学習が求められます（『学習の手引き』2012年版p.104～109，2011年版p.107～112参照）。

とくに、3年次編入学者は、5月31日（または遅くとも7月15日）までに「★演習A」「◆演習Ⅰ」を申込まないと、来年度に実習ができません。

受講条件は下記を参照してください。

「★演習A」：『レポート課題集2011(1・2年次)』p.193

「◆演習Ⅰ」：『レポート課題集2011(1・2年次)』p.129

また、平成24年8月までに「★演習A」「◆演習Ⅰ」スクーリング受講希望の方は、本冊子巻末の「「★社会福祉援助技術演習A」「◆社会福祉援

助技術演習Ⅰ」スクーリング申込用紙」を5/31（または7/15）までに提出してください。

3 「★演習B」「◆演習Ⅱ」受講希望の方へ

上記スクーリング申込締切日は、3月15日に締め切りました。受講決定者には、遅くとも4月23日までに通知いたします。

なお、次回の申込締切日は9月15日で、スクーリング受講条件は下記を参照してください。

「★演習B」：『レポート課題集2011(3・4年)』p.122~123

「◆演習Ⅱ」：『レポート課題集2011(3・4年)』p.56~57

4 「体験学習・次年度実習ガイダンス」の受講について《重要》

平成22年度以降の「体験学習・実習ガイダンス」を受講していないと平成24年度の実習申込み→平成25年度の実習を行うことができません。

なお、受講が必要な方は、「体験学習・次年度実習ガイダンス」受講希望の旨を通信教育部まで書面でお申し出ください（様式任意です）。別添連絡いたします。

5 「★演習C」スクーリング申込みについて

新カリキュラム実習免除者の方および来年度以降に科目等履修生を希望する方は、本冊子巻末の「【新カリキュラム実習免除者・来年度以降の科目等履修生希望者用】「★社会福祉援助技術演習C」スクーリング申込カード」を提出してください。また、それ以外の方は「★社会福祉援助技術実習指導A」スクーリング時に配付した申込用紙でお申込みください。

4 精神保健福祉士 取得希望の方へ

1 発送物のご案内

演習スクーリング成績結果通知	3 / 23までに発送予定
実習審査結果通知	2 / 28までに発送済み
実習内諾通知書・実習日程カレンダー	内諾が取れた方に順次発送
実習事前指導申込用紙（7 / 1～12 / 25実習受講者）	3 / 14発送済 →申込締切日 4 / 2
実習事後指導申込用紙（2 / 1～7 / 10実習受講者）	3 / 14発送済 →申込締切日 4 / 9

2 『試験・スクーリング情報ブック2012』の追加訂正のご案内

『2011レポート課題集3・4年次』の「精神保健福祉援助演習」（p. 75～）、「精神保健福祉援助実習」（p. 83～）で訂正される箇所は下記のとおりです。『試験・スクーリング情報ブック2012』の追加訂正としてご確認ください。現在実習を行っている（これから行う）方の事前・事後指導スクーリングの申込み用紙は、対象者に個別に送付・案内いたします。それぞれの期日に合わせて学習計画を立ててください。

050141 精神保健福祉援助演習

ページ数	変更事項(位置)	変更内容
p. 75	担当教員の変更 (ページ上段)	→ 阿部正孝・志村祐子・大和田誠子・ 八巻幹夫 ほか
p. 75	教科書の変更 (ページ中段)	→ 平成25年度より新カリキュラムに対応 した教科書に変更予定。平成24年7月ま での履修登録者には現行の教科書を配本 します。新カリキュラムの教科書を希望 の方は各自自己負担でご購入ください。
p. 78	演習開講日程の変更 (ページ中段下)	「開講日程」を次表に変更。

●開講日程

①～④のいずれかの連続する2日間7コマの演習を受講してください。

開講日程	会場	申込締切日	1単位めレポート 提出期限	2単位めレポート 提出期限
① 6 / 2 (土)・3 (日)	仙台	3 / 15 (木)	4 / 16 (月)	H25. 1 / 20 (日) ※ 3・4・5 参照
② 7 / 14 (土)・15 (日)				
③ 10 / 20 (土)・21 (日)		9 / 15 (土)	9 / 15 (土) (注)	
④ 11 / 3 (土)・4 (日)				

(注)：演習の開講日程上、申込締切日と1単位めレポートの提出期
日が同じになっています。

↓以下のp. 78の※1・2・4・5の訂正は、上表の補足事項に関するも
のです。

p. 78	演習開講日程補足事 項の変更	※1 開講時間 2日目 9：30～14：40 (10：30の み 9：00～14：10) → 削除
p. 78	演習開講日程補足事 項の変更	※2 の文章 → すべて削除
p. 78	演習開講日程補足事 項の変更	※4 2011年8月末で ↓ ※4 2012年8月末で

p. 78	演習開講日程注釈の変更	<p>※5 2011年11月末の受理条件を目指す方は、2単位め(事後課題)レポートを11月20日(日)までに提出し～</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>※5 2012年11月末の受理条件を目指す方は、2単位め(事後課題)レポートを11月20日(火)までに提出し～</p>
p. 79	単位認定の説明文変更(下から7行め)	(2011年8月末で → (2012年8月末で

050902 精神保健福祉援助実習

ページ数	変更事項(位置)	変更内容
p. 83	教科書の変更(ページ中段)	3)の内容を下記に変更 →平成25年度より新カリキュラムに対応した教科書に変更予定。
p. 89	単位修得方法の変更(ページ中段)	<p>◆11月末申込者が実習申込受理条件を達成するための単位修得方法</p> <p>2)科目修了試験</p> <p>第7回(1月)科目修了試験を受験する方は1/5がレポート提出締切日となります。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>第7回(1月)科目修了試験を受験する方は12/19がレポート提出締切日となります。</p>
p. 89	単位修得方法の変更(ページ下から7行め)	<p>◆8月末申込者が実習申込受理条件を達成するための単位修得方法</p> <p>2)科目修了試験</p> <p>第3回(7月)科目修了試験を受験する方は7/14がレポート提出締切日となります。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>第3回(7月)科目修了試験を受験する方は7/12がレポート提出締切日となります。</p>

p. 90	精神保健福祉援助実習指導スクーリング申込手続き (ページ中段)	(注) 7月からの実習を希望する方は、必ず次頁開講日程表①5/22に開講される事前指導を受講してください。 ↓ (注) 7月からの実習を希望する方は、必ず5/27に開講される事前指導を受講してください。
p. 91 ~93	事前・事後指導スクーリング開講日程の変更	対象者に郵送にて個別案内します。

5 平成24年度国家試験対策講義のご案内 (社福・精保共通)

平成24年度の「特講・社会福祉学5・6」(社福・精保共通, 11/23年後のスクーリングのみ別開講)は、履修方法が「S」から「R or SR」に変更されたため、本科目をすでに履修登録済みの方も、「R or SR」いずれの方法で履修されるのか、本冊子巻末の用紙にて再度申し込んでいただく必要があります(提出期限: 4月18日)。

なお、未履修の方は、巻末用紙の提出をもって履修登録とさせていただきますので、希望者は下記①~③ごとに手続きを行ってください。

①在籍者で既に平成24年度の履修登録手続きを済ませている方

巻末用紙にて申込みと同時に追加履修登録が可能です。

②在籍者で平成24年度の履修登録手続きがまだの方

まずは巻末用紙を提出期限までお送りください。「履修登録用紙(OCR)」は他の科目の履修登録時の提出で可です。

※上記①②とも超過履修となる場合は、超過履修費が発生します。

③平成24年3月に卒業される方(平成24年度国家試験受験予定者)

卒業後に「特講・社会福祉学5・6」を受講希望の方は、別途書面(郵

送・FAX・Eメール：uj@tsukyo.tfu.ac.jp)にてお問い合わせください。

●通信教育部卒業生による合格体験談・懇親会について

5/18(金)1コマめ(18:00~19:20)は、本学通信教育部から国家試験に合格した方を招いて、家事や仕事をしながらの受験勉強方法や合格のコツ、資格取得後のお仕事について語っていただきます。

その後、懇親・情報交換会(19:40~20:40)を学内の食工房「風土」にて開催する予定です(飲食代・参加費すべて無料)。

5/18(金)の1コマめおよび懇親・情報交換会は任意参加であり、スクーリング単位修得のための必要コマ数にはカウントされません。参加希望者は本冊子巻末の「履修・履修方法申込」用紙にて併せて申込みください。

1コマめ、懇親・情報交換会、いずれか一方のみの参加も可能です。

6 教職免許状 取得希望の方へ

- 高等学校福祉科免許状取得希望者 『学習の手引き』3章や『レポート課題集2011(3・4年次)』『介護実習事前事後指導 介護実習』『教育実習の事前事後指導 教育実習』をよく読み、学習計画をたててください。

- 特別支援学校免許状取得希望者 『学習の手引き』3章や『レポート課題集2011(3・4年次)』『障害者(児)教育実習の事前・事後指導 障害者教育実習』をよく読み、学習計画をたててください。

- 免許状取得見込証明書の発行 教員採用試験を受験予定で、「免許状取得見込証明書」の発行を希望する場合の基準は下記のとおりです。
 - ・本年3月までに教育実習事前指導受講済の方
 - 原則として、申請があれば発行します。

 - ・それ以外の方
 - レポートを1通以上提出したうえで、「免許状取得見込証明書」の発行申請時に、来年3月末までに免許状取得に必要な単位修得ができる学習計画書を提出し、認められれば発行します。学習計画書は『学習の手引き』6章の書式を参考に、科目ごとにレポート提出・科目修了試験受験・スクーリング受講などの予定を記入してください。実習が必要な方は、7/28・29の実習事前指導スクーリングを受講できる条件を満たすような学習計画を立ててください。

要約すること・レポートをまとめること

レポートをまとめる際には、教科書や参考図書の本の文章を「要約」して使ってください。「要約」は、文章の順番を入れ替えてみたり、2つの文章を短く1つにしてみたりなど、ちょっとした工夫で慣れれば簡単にできます。

また、文章をひねくねしながらつくっていくなかで、自分の理解を深めていくことができ、それが「勉強」ともいえます。

新入生の多くの方がもっている「福祉心理学」の教科書『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学』のp.95「社会的認知」の説明から要約の具体例をあげてみます。「社会的認知とは何か」という課題に答えていくものとします。

1 まる写しの「引用」からさまざまな「要約」へ _____
(引用として使用＝引用した部分を「」で囲む。出典を必ずあげる。まる写ししかできない場合などやむをえない場合に使用)

「私たちは周囲の人々に対して『あの人はきっと～な人だろう』と印象を抱くことがある。また、ニュースなどで重大な社会的事件を見聞きすれば、『なぜ犯人はこのような行動を起こしたのだろうか』と、その行動の原因について思いをめぐらす。このような、私たちが『ひと』や『ものごと』について理解しようとするプロセスは社会的認知と呼ばれている。」(小松紘・木村進編著『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学』八千代出版、2009年 p.95より引用)

(要約1＝ちょっと文章の順番を入れ替えてみる)

社会的認知とは、「ひと」や「ものごと」について理解しようとするプロセスのことである。たとえば、周囲の人々に対して「あの人はきっと～な人だろう」と印象を抱くことである。

(要約2＝具体例をカットしてみる)

周囲の人々に対する印象や行動の原因の推測など「ひと」や「ものごと」について理解しようとするプロセスを社会的認知という。

(要約3＝ただ文章を短くしただけのあまりよくない要約。やむをえない場合に使用)

周囲の人々に「あの人はきっと～な人だろう」と印象を抱いたり、「なぜ犯人はこのような行動を起こしたのだろうか」と、その行動の原因について思いをめぐらしたりするように、私たちが「ひと」や「ものごと」について理解しようとする過程を社会的認知と呼ぶ。

2 さらに深く学習してみるために _____

要約2のような文章をつくっても、自分で「社会的認知」のことがわかった

ような気がしない場合、次のようなことをしてみましょう。

(1) 他の本にあたって、同じことの別の説明を読んでみる

教科書の続きの文章を読んだり、専門的な辞典でその用語を調べたり、他の科目の教科書に説明がないか調べたり、参考図書やインターネットも利用してみましょう。たとえば、下記のような文章に出会ったとします。

「私たちが社会生活を円滑に送るためにまず必要になってくることは、自分を取りまく環境がどのようなものであるかを知ること（認知）です。特に、自分が関わりをもっている人たちの状態を理解することは、その人物との社会的相互作用を無理なく進めていく上で、最も重要なことになるでしょう。」
(大坊郁夫編著『わたしそしてわれわれ ver. 2』北大路書房, 1993年 p. 130より引用)

「『社会的』という形容詞は、『(個)人』から始まって集団や組織、そして『社会』まで、人を構成要素として成り立つすべての対象に通用するよう用いられてきた。その意味するところは『社会を構成する人に関わる』ということである。」(池田謙一・村田光二著『こころと社会』東京大学出版会, 1991年 p. 54より引用)

「『あばた』を見て『異質のものがあるな』と感じるのが感覚、『あばた』と認識するのが知覚、『あばた』を『えくぼ』と読みとるのが認知とでもいえるであろうか。」(丸山欣哉編『基礎心理学通論』福村出版, 1996年 p. 46より引用)

「社会的認知 人に関わる対象の認知のことで、社会的知識の内容と構造、その認知過程……を対象とした研究領域の総称。……従来からの対人認知、帰属、態度等の研究テーマに加えて、集団や組織・制度といったより広範な社会的対象の認知、社会的推論と判断、社会的相互作用と認知、感情・動機づけと認知、自己等の幅広い研究テーマを含んでいる。」(『心理学辞典』有斐閣, 1999年 p. 375より引用)

(2) 自分で具体例を考えてみる

(考えたこと)

「ひと」や「ものごと」についての理解ということは、他人や社会の出来事について知ることを「社会的認知」というのかな。社会的ってよくわからないコトバだな。今度入ってきた新入社員がどういう人かとかもあるし、ニュースなどで重大な社会的事件ということは東日本大震災について知っていることも「社会的認知」かな。『心理学辞典』では研究領域の総称ということになっているが、ということだろうか。

(3) 2つ以上の本を読んで見つけた文章と自分で考えたことを組み合わせて文章をつくってみる

(例1)

個人、集団や組織、社会など人を構成要素として成り立つすべての対象に対する認知を社会的認知という。「自分を取りまく環境がどのようなものであるかを知ること」であり、「あの人はきっとやさしい人だろう」という印象をもつこと、好きな人に対してあばたをえくぼと読みとるようなちょっとゆがんだ判断、東日本大震災などの社会的事件に思いをめぐらすことなどがある。

(例2)

「自分を取りまく環境がどのようなものであるかを知ること」が社会的認知である。社会的認知には、今度入ってきた新入社員がどのような人かなど他人について、今日の会社の雰囲気はどうかなど集団について、祖母の入院など個人的出来事について、東日本大震災など皆が知っている出来事について、あるいは通信教育とはといった一般的なものについての理解・イメージなどがある。

このような社会的認知がどのように作られていくか、そしてそれが他人と共有できるかできないかは、大変興味深い。……

例2では、教科書の要約からはだいたひ離れた表現がつけられたといえます。そのためには、いろいろな本を読んで、または講義などでいろいろな話を聴いて、そのなかから何か自分なりの関連を見つけ、文章にまとめることが必要になります。時間がかかりますが、理解を深めることができます。また、自分なりの言葉でまとめると正しいかがわからず不安になりますが、先生の添削を受けることで自分のまとめ方がよかったか確認もできます。もちろんそこまでしなくても、レポートは合格点をもらえることが多いので、まずは、要約を使って、レポートをまとめてみましょう。提出しないと前に進みませんので。

3 レポートをまとめる際のルール

『学習の手引き』6章のレポートに他者の文献を「引用」したり「要約」したる際のルール

- ・引用は必要最小限にする（1レポート最大でも500字以内）。
- ・引用部分は、その他の部分とわかるように「 」で囲む。
- ・引用した本や、要約のために参考にした本やホームページは、教科書も含めてどこから引用したのかを、『学習の手引き』記載の書式でレポート末の文献または引用した直後に必ずあげる。

をお守りいただくとともに、基本的には「引用」を使用せず、教科書や参考図書の文章を「要約」するかたちで、レポートをまとめることを心がけてください。
(通信教育事務部 古藤隆浩)